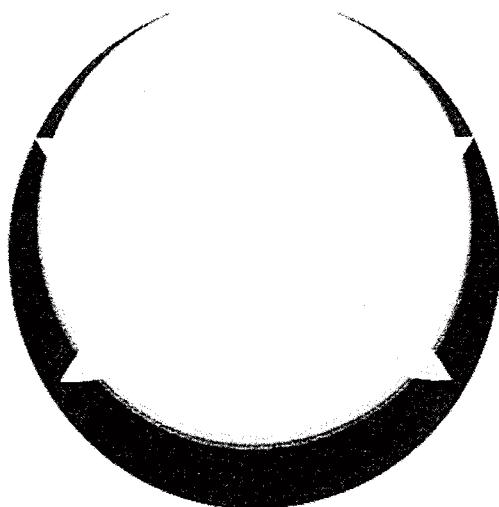


2022年度北海道大谷学園連合会 高等学校相互評価報告書

対象校 北海道大谷室蘭高等学校



HOKKAIDO OTANI
MURORAN HIGH SCHOOL

評価校 函館大谷高等学校

(実施日：2022年12月6日)

2023年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

主査 中西 猛雄（北海道教区大谷学園委員会委員）
委員 山田 寿雄（北海道教区大谷学園委員会委員、主査代理）
委員 金石 潤導（真宗大谷派北海道教区教化本部長）
委員 丸山 政秀（函館大谷高等学校校長）
委員 佐藤 健一（函館大谷高等学校 事務長）
委員 小野 茂（帯広大谷高等学校 校長）
委員 佐藤 真司（帯広大谷高等学校 教頭）
委員 澤田 満（北海道室蘭大谷高等学校 教頭）

北海道大谷室蘭高等学校の概要

設置者 学校法人 望洋大谷学園
理事長名 西崎 習一
校長名 竹本 将人
開設年月日 1958年1月
所在地 北海道室蘭市八丁平3丁目1番1号
設置学科 普通科
入学定員 225名
教職員数 (総数) 43名 (常勤) 31名 (非常勤[技術員含]) 12名

調査結果

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

建学の精神等については、大きな柱としている「宗祖親鸞聖人」「本願念佛」とを建学の精神・教育目標に用いることによって教育現場で認識できるようにしている。また、宗教教育の実践を掲げ、時代に流されことなく建学の精神のもとあらゆる教育活動が「真の人間」の育成を展開していくことを目指している。

これらの具体的な活動として、S H R での合掌や様々な行事での理事長挨拶。さらには年一回行われる教職員向けの宗教教育研修や座談が行われており、その場限りのものとしないように講義集が作成されている点等、真宗大谷派の学校として、とても評価できる。

II 分掌

【教育課程・学習指導（教務）】

クラス担任と部活動顧問が協力しながら面談を行うことで、生徒一人ひとりが登校する目的を整理しながら、自分自身で明確な目標を持てるよう促している。その成果として昨年度の退学者が0名となっており、生徒が具体的な目標を持つて学校生活をしていることが良くわかる。

また、学業委員会において定期試験終了ごとに欠席時数を把握し、単位不認定を未然に防ぐとともに生徒が意欲的に登校できるように、指導方法について検討している。その際に保護者との情報共有と協力を得ながら進めており、丁寧な指導をしていることがわかる。

面談の実施方法などは函館大谷としてもすぐに取り組める内容であり、実施に向けて検討していきたいと考えている。

【生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）】

友達とのコミュニケーションを取る時間を大切にして欲しいとの願いのもと、毎週水曜日にスマートホンの使用をしない「ノースマホデー」を実施している。全校放送で周知したり担任や教科担任から生徒に声かけ等を行っており、使用については生徒の自主性を尊重しながらの実施という点が評価できる。

部活動については9割以上の生徒が加入しており、生徒会執行部と協力しながら様々な学校行事などを作り出している点も評価ができる。

【進路指導】

1年次より進路への関心を深めていくためにH R ・校内ガイダンス・外部講師などによる進路ガイダンスだけではなく、1・2年生が3年生から話を聞くなど学校全体で進路への意識と成長を促しながら指導している様子が伺える。また、昼休みと放課後に進路指導部教員による相談会や、目的別の土曜・放課後講習の実

施など生徒一人ひとりに合わせた指導をおこなっている。

【保健管理・安全管理・個人情報管理】

保健管理・安全管理については、学校保健安全法に基づき実施されているので評価できる。また、個人情報管理についても、学園の規程が明確に示されており、個人情報が適切に管理されている。

【入試・生徒募集】

進路状況や受験制度方針、学校方針や部活動状況など普段の様子を知ることでできるニュースレターを作成し近隣中学校に配布している。「ここで学びたい」と選ばれる学校づくりを心掛けている点や、自分に合った受験方法で受験出来る制度が準備されていることなどが高く評価できる。

【地域活動】

様々な機会を利用して一人でも多くの保護者に来校してほしいという思いで案内を出したりホームページで発信している。また、来校できない保護者のためにPTAで新聞を定期的に発行している点などは函館大谷でも検討していきたい。

また、近隣の4つの町内会と連携して様々な事に取り組んでいたり、意見交換の場として活用している点は非常に素晴らしいものである。

III 財務

事業活動収支計算書（抄）によると令和3年度の教育活動収支差額は70,237千円、経常収支差額は65,263千円の収入超過であり、当該年度の収支は健全である。道により示される基準職員数に準じた適正な教職員の配置をはじめとして健全な経営がおこなわれていることが健全な収支につながっており、評価できる。

また、新校舎建設に係る借入金の返済等、債務の償還は順調であり、今後も健全な経営が期待できよう。なお、急激な少子化による入学者の減少は避けられないが、学生寮の新設をはじめ、積極的な募集により管外からの入学者の確保を図るなど、中長期的な経営計画も評価できる。

以上のとおり、北海道大谷室蘭高等学校の教育活動について評価をさせていただきました。

本校としても多くのことを学ぶ良い機会となりました。今後の教育活動の参考にさせていただきたいと思います。この度は対応していただきました、竹本校長先生、庭田事務長先生をはじめ、諸先生方には、多くのご助言をいただきました。心より感謝申し上げます。

以上